

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	4	4	4	9	10	38	33	0	3	総調査ほ場数: 66か所 総調査株数: 1,650株 (調査株数 25株, 調査花数 100花)
	本年平均値	6.1	6.1	6.1	13.6	15.2	57.6	50.0	0.0	4.5	
	平年値	3.9	4.5	13.3	8.1	5.3	47.2	48.1	0.0	18.1	
	(本年平均値/平年値) × 100	156.4	135.6	45.9	167.9	286.8	122.0	104.0	-	24.9	
株率 (%)	発生株数	0	3	1	1	36	354	143	0	3	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病及び萎黄病が例年より多くのほ場で発生がみられています。 ・灰色かび病の発生は平年並みです。 ・ハダニ類の発生は、平年並みですが、ほ場間で発生量の差が大きい傾向があります。 ・アブラムシ類が例年より多くのほ場で発生が見られます。
	本年平均値	0.0	0.2	0.1	0.1	2.2	21.5	8.7	0.0	0.0	
	平年値	0.1	0.1	0.7	0.1	0.4	16.6	9.1	0.0	0.5	
	(本年平均値/平年値) × 100	0.0	200.0	14.3	100.0	550.0	129.5	95.6	-	0.0	
発生程度	やや多	平年並	やや少	やや多	多	平年並	平年並	平年並	少	やや少	
概 評		平年並	平年並	やや少	やや多	多	平年並	平年並	少	やや少	

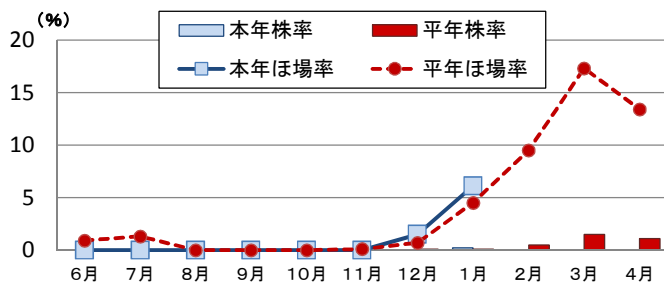


図1 灰色かび病発生ほ場率・株率

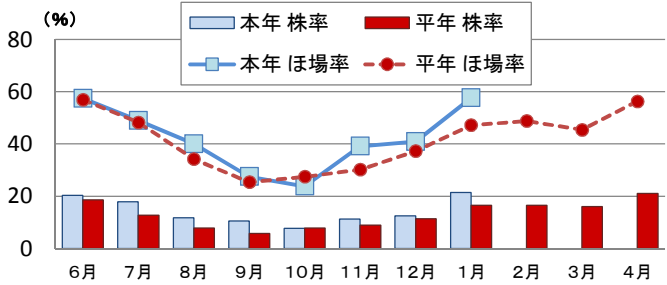


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

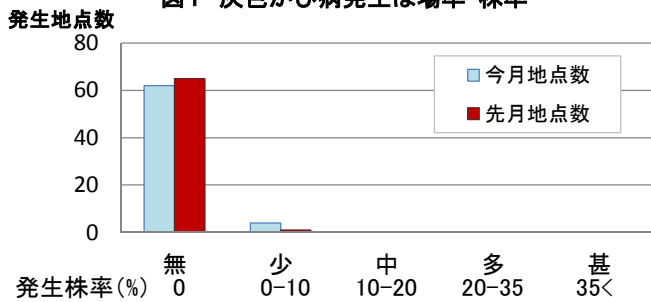


図3 発生程度別の地点数(灰色かび病)

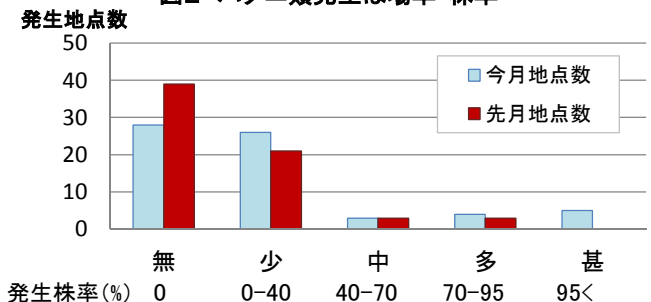


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○灰色かび病対策

- ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水は最小限にとどめる。
- ・発病部位(果実、果梗等)は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・予防を主体にセイビアーフロアブル20、ダイマジン等を散布する。
- ・微生物防除剤(ボトキラー水和剤等)は発病前～発病初期に利用する(使用時は、施設内10℃以上確保)。

○ハダニ対策

- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・必要に応じて葉かきを行い、薬剤がかかりやすい状態で気門封鎖剤等を散布する。
- ・天敵を放飼する前に、必ず一度防除をしてハダニの密度を下げる。また、使用薬剤については、天敵に影響のないものを選択する。なお、天敵放飼から1～2週間は薬剤散布を避ける。



写真 灰色かび病が発生した果実

○今月の技術情報(技術指導班)○(1月)

11月下旬～12月上旬の降水日以降、灰色かび病及び菌核病が多く見られるようになりました。また、害虫では、引き続きハダニ類の発生が多い状態が続いています。同時に、アブラムシ類の発生が多くなっています。換気時間が短い中での防除は、品質低下が懸念されますので、早期発見、早期防除に努めましょう。

例年、2月以降には降水量が増え、多湿状態になりやすく、気温も徐々に上昇してきます。そのため、これらの病害虫による被害が拡大する恐れがあります。下葉の除去、除湿など管理作業、ハウス内の適正な温湿度管理や換気等により、発生しにくい環境を作るよう努めましょう。

まだまだ寒い日が続きます。ハウスの隙間をなくし、保温効果高めるとともに、受粉用ミツバチの活動も弱くなりやすい時期ですので、活動状況も併せて確認しましょう。